




「認知症の症状」と「ケアのポイント」 認知症の症状は少しずつ変化していきます。家族や周囲の人が症状に合わせ、必要なサービスを利用しながら対応していくことが大切です。

病気によって症状は異なり、あらわれ方も個人差があります。(図はアルツハイマー型認知症の人の例です。)

進行度	軽度 → 中度 → 重度			
本人の状況	<p>もの忘れはあるが、金銭管理や買い物など、日常生活は自立している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 同じ商品を購入している。</li> <li>• 何度も同じことを言う。</li> <li>• 日にち、時間が分からなくなる。(時間に間に合うように準備できない)</li> <li>• 外出が減る。</li> </ul>	<p>買い物や事務、金銭管理などにミスは見られるが、日常生活はほぼ自立している。</p> 	<p>服薬管理ができない。一人では電話の応答や訪問者の対応などが難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 場所が分からなくなり、道に迷う。</li> <li>• 食事をしたことを忘れる。</li> <li>• 買い物や調理の段取りが難しくなる。</li> <li>• つじつまの合わない話が増えてくる。</li> <li>• 季節に合わせた服装の選択が難しくなる。</li> <li>• 急に興奮して攻撃的になることがある。</li> </ul> 	<p>日常生活全般に手助けや介護が必要になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 知人、家族の顔が分からなくなる。</li> <li>• 表情が乏しくなる。</li> <li>• 言葉の理解が難しくなり、一方的な話をする。</li> <li>• 食事(飲み込み)が難しくなる。</li> <li>• 排泄に介助が必要になる。</li> <li>• 物事への関心が薄くなり、同じことを何度も聞くことが少なくなる。その結果、もの忘れが目立たなくなる。</li> </ul>
	<p>アドバイス</p> <p>いつもと違う・困った事が少しずつ増えていきます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○気づいたことは<b>メモをして、かかりつけ医、地域包括支援センターに相談</b>しましょう。</li> <li>○接し方や支援方法を相談しましょう。(地域包括支援センター・オレンジカフェ)</li> <li>○本人ができることを尊重し、できないことは手助けしましょう。</li> </ul> <p>※ 本人が話や行動の失敗、間違いを取り繕うため、周囲の人は気づかない事があります。</p>	<p>分からない事や出来ない事が増えているため、本人は不安な気持ちになっていきます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人で<b>抱え込まず相談</b>しましょう。</li> <li>○近所の人に状況を話し理解してもらいましょう。</li> <li>○火の消し忘れなど、思いがけない事故に備えて<b>安全対策</b>を考えましょう。</li> </ul>	<p>着替えや食事、トイレ等身の回りの支援が必要になることが増えていきます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護を頑張りすぎないで、<b>周囲の人たちに援助</b>を求めたり、<b>医療や介護サービス</b>を利用しましょう。</li> <li>○道に迷う事があるので近所の人に説明し、見かけたときには連絡がもらえるよう<b>協力体制を整え、高齢者見守りネットワークへ登録</b>しておきましょう。</li> <li>○判断能力の低下から悪徳商法などの被害が予想されます。<b>成年後見制度</b>の利用を考えましょう。</li> </ul>	<p>身体機能が衰え、言葉による意思疎通が難しくなることがあります</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニケーションが難しくなってきたら手を握るなどの<b>スキンシップ</b>を試みてみましょう。</li> <li>○<b>疲労をためず、息抜き</b>するなど<b>リラックス</b>できる時間を持ちましょう。</li> <li>○<b>その人らしい生活を続けられるように、みんなで考えていきましょう。</b></li> </ul> 
医療・福祉・介護サービス	相談窓口 地域包括支援センター			
	医療 かかりつけ医 ・ かかりつけ歯科医 ・ かかりつけ薬局 ・ 認知症疾患医療センター			
	地域 公民館活動 ・ サロン ・ 老人クラブ ・ 百歳体操 ・ オレンジカフェ ・ 認知症サポーター ・ 高齢者見守りネットワーク など			
	介護 介護サービス(ケアマネジャー ・ 訪問介護 ・ 通所介護 ・ 訪問入浴 ・ ショートステイ ・ 訪問看護 ・ 住宅改修 ・ 福祉用具の貸与)			
	本人の権利を守る制度 権利擁護 ・ 成年後見制度			
高齢者向け住居 養護老人ホーム ・ ケアハウス ・ 有料老人ホーム				
介護保険施設 認知症対応型グループホーム(要支援2以上) ・ 介護老人保健施設(要介護1以上) ・ 介護老人福祉施設(要介護3以上) など				

こんな時はどうすればいいの？

<p>ご飯はまだ？今日は何日？など同じ事を何度も聞いてきます。</p>	<p>新しいことが覚えられなくなるので、何度も同じ事を尋ねます。それは状況がわからず不安なためです。一方的に怒ったり、否定すると不安が大きくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 初めて聞いたときと同じように対応しましょう。</li> <li>• 大事なことは大きく書いて貼っておきましょう。</li> </ul>	<p>通帳がない。財布がない。家族(身近な人)が盗ったと疑います。</p>	<p>いつもと違う場所にしまい込み、そのことを忘れてしまっても、忘れたことが受け入れられません。なくした物が出てくれば収まるので、あまり深刻にならず、一緒に探し本人が見つけれられるように導きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 怒ったり否定せずに、不安に耳を傾けましょう。</li> <li>• 介護者を周りの人が支えてあげましょう。</li> </ul>	<p>これらは気になる症状と接し方の例です。困った時は地域包括支援センターなどに相談しましょう。</p>
-------------------------------------	--	---------------------------------------	--	--